

2022年度
金沢学院短期大学
学生の学修状況・学修成果等の
検証報告書

2023年3月31日
金沢学院短期大学

目次

I. アドミッションポリシーの評価	3
1. 評価資料	3
1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）	3
1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思	3
1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1、2-2 参照）	3
1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表 3-1、3-2、3-3 参照） ...	4
2. 各学科の評価	9
2-1. 現代教養学科	9
2-2. 食物栄養学科	12
2-3. 幼児教育学科	15
3. 短期大学のアドミッションポリシーに関する総合評価	18
II. カリキュラムポリシーの評価	19
1. 評価資料	19
2. 各学科の評価	20
2-1. 現代教養学科	20
2-2. 食物栄養学科	21
2-3. 幼児教育学科	22
3. カリキュラムポリシーに関する総合評価	23
III. ディプロマポリシーの評価	24
1. 評価資料	24
2. 各学科の評価	24
2-1. 現代教養学科	24
2-2. 食物栄養学科	25
2-3. 幼児教育学科	25
3. ディプロマポリシーに関する総合評価	26

I. アドミッションポリシーの評価

1. 評価資料

1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）

入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均と標準偏差を短期大学全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均について、短期大学平均+1 標準偏差以上を「学内平均を上回る」、短期大学平均±1 標準偏差の範囲を「学内平均並み」、短期大学平均-1 標準偏差未満を「学内平均を下回った」と表記した。また各学科及び各入試区分の総合成績の平均を個人の得点と見なし、学内偏差値を算出した。

短期大学全体の基礎学力確認テストの受験者は 163 名（昨年度比+17 名）であった。

平均点は、英語（35 点満点）が 15.8 点（ $SD=6.03$ ）で昨年度比+0.4 点、数学（30 点満点）が 20.2 点（ $SD=4.84$ ）で昨年度比-0.1 点、2 科目の総合成績（65 点満点）が 36.0 点（ $SD=9.72$ ）で昨年度比+0.3 点であった。いずれもほぼ昨年度と同じ点数であった。標準偏差については、数学と総合成績の値が昨年度よりやや大きくなっている。

1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思

1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1、2-2 参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全 23 項目）から、学修意欲と学修への興味関心を問う 2 つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を短期大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」

①とても持っている ②まあまあ持っている ③あまり持っていない ④持っていない

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」

①一致している ②一致していないが、興味関心に近い分野 ③興味関心とは異なる分野

④まだ自分の興味関心がわからない ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない

⑥その他

である。

回答者は短期大学全体で 163 名（前年度比+13）であった。集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。

学修意欲を尋ねる項目 2 の有効回答数は、短期大学全体で 163 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 2-1）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①とても持っている：84 名（51.5%、+2.9 ポイント）

②まあまあ持っている：78 名（47.9%、増減なし）

③あまり持っていない：1名（0.6%、-2.1ポイント）

④持っていない：0名（0.0%、-0.7ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は99.4%（前年度比+2.8ポイント）であり、短期大学全体で見た場合は、入学後の学修に対して意欲的な学生が入学してきたと言える。

入学した学科の学問分野と興味関心の一致の程度を尋ねる項目23の有効回答数は、短期大学全体で162名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表2-2）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①一致している：128名（79.0%、+1.1ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：16名（9.9%、-3.1ポイント）

③興味関心とは異なる分野：1名（0.6%、-1.5ポイント）

④まだ自分の興味関心がわからない：15名（9.3%、+5.2ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：2名（1.2%、+0.5ポイント）

⑥その他：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は88.9%（前年度比-4.3ポイント）であり、短期大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表3-1、3-2、3-3参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全23項目）から、今後の学修や短期大学での大学生活への期待感、大学生活へのイメージの有無を問う3つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を短期大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」

①とても楽しみ ②まあまあ楽しみ ③あまり楽しみではない ④楽しみではない

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」

①ある ②まあまあある ③あまりない ④ない

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」

①とてもそう思う ②どちらかといえばそう思う

③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

である。

回答者は短期大学全体で163名（前年度比+13）であった。集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。

短期大学での大学生活への期待感を尋ねる項目4の有効回答数は、短期大学全体で163名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-1）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①とても楽しみ：52名（31.9%、-5.9ポイント）

- ②まあまあ楽しみ：99名（60.7%、-9.2ポイント）
- ③あまり楽しみではない：12名（7.4%、-5.3ポイント）
- ④楽しみではない：0名（0.0%、-2.1ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は92.6%（前年度比-3.3ポイント）であり、短期大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

短期大学での今後の大学生活へのイメージ形成の程度について尋ねる項目9の有効回答数は、短期大学全体で162名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-2）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

- ①ある：10名（6.2%、-2.7ポイント）
- ②まあまあある：77名（47.5%、-3.9ポイント）
- ③あまりない：66名（40.7%、+2.3ポイント）
- ④ない：9名（5.6%、+4.3ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は53.7%（前年度比-6.6ポイント）である。短期大学全体でも学科別でも、最も回答が多くなるのは選択肢②または選択肢③である。今後の大学生活へのイメージは、一部の学生ではできあがっているが、その程度がやや低い学生も半数程度いることがわかる。対象となった新生が高校2年生であったときに新型コロナウイルス感染症が拡大し始め、その後の2年間に渡ってオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できなかったことも影響している可能性がある。

この短期大学で学び続けられそうか（入学してよかったと思うか）を尋ねる項目22の有効回答数は、短期大学全体で163名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-3）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

- ①とてもそう思う：76名（46.6%、増減なし）
- ②どちらかといえばそう思う：80名（49.1%、-2.3ポイント）
- ③あまりそう思わない：7名（4.3%、+2.9ポイント）
- ④まったくそう思わない：0名（0.0%、-0.7ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は95.7%（前年度比-2.2ポイント）であり、短期大学全体で見た場合は、本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

表1 基礎学力確認テストの学科別成績一覧

英語	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	60	16.4	6.28	32	4
食物栄養学科	65	15.9	5.52	33	7
幼児教育学科	38	14.6	6.30	32	4
全体	163	15.8	6.03	33	4

数学	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	60	19.8	5.13	29	9
食物栄養学科	65	20.8	3.98	28	6
幼児教育学科	38	19.9	5.54	29	9
全体	163	20.2	4.84	29	6

総合（英語+数学）	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	60	36.2	10.39	58	16
食物栄養学科	65	36.8	8.44	59	14
幼児教育学科	38	34.6	10.48	56	18
全体	163	36.0	9.72	59	14

表2-1 項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とても持っている	43.3	46.2	73.7	51.5
まあまあ持っている	55.0	53.8	26.3	47.9
あまり持っていない	1.7			0.6
持っていない				

表2-2 項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
一致している	69.5	80.0	92.1	79.0
一致していないが、 興味関心に近い分野	8.5	13.8	5.3	9.9
興味関心とは異なる 分野	1.7			0.6
まだ自分の興味関心 がわからない	16.9	6.2	2.6	9.3
入学した学部・学科・ 専攻の内容がよくわ からない	3.4			1.2
その他				

表3-1 項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とても楽しみ	21.7	35.4	42.1	31.9
まあまあ楽しみ	70.0	53.8	57.9	60.7
あまり楽しみではない	8.3	10.8		7.4
楽しみではない				

表3-2 項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
ある	10.2		10.5	6.2
まあまあある	35.6	56.9	50.0	47.5
あまりない	45.8	36.9	39.5	40.7
ない	8.5	6.2		5.6

表3-3 項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」と思いませんか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とてもそう思う	38.3	40.0	71.1	46.6
どちらかといえばそう思う	56.7	56.9	23.7	49.1
あまりそう思わない	5.0	3.1	5.3	4.3
まったくそう思わない				

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：16.4 ($SD = 6.28$)、数学：19.8 ($SD = 5.13$)、総合 36.2 ($SD = 10.39$)

現代教養学科の基礎学力確認テストの受験者数は 60 名（前年度比+8 名）であった。総合成績の平均は 36.2 点 ($SD = 10.39$) で、短期大学の平均（36.0 点）よりも 0.2 点高く、前年度比では -0.9 点であった。英語は前年度比+1.4 点、数学は前年度比-0.5 点であった。前年度と学力的にはほぼ同等であると言える。

本学科では、エントリー入試と附属高校選抜以外に入学者が 10 名を超える入試区分がなく、入試区分別の比較は妥当ではない。

総合成績において短期大学平均以上または短期大学平均並み（短期大学平均-1 標準偏差以上=26.3 点以上）の受験者は学科の 80.0%を占める。短期大学平均-1 標準偏差未満=26.3 点未満（受験者全体の下位 15.93%）に相当する受験者の比率は 20.0%で、前年度よりも 6.5 ポイント上昇した。

評価

基本的な学力は短期大学の平均並みで、学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：60 名分（欠損なし）

- ①とても持っている：26 名（43.3%、+14.5 ポイント）
- ②まあまあ持っている：33 名（55.0%、-8.5 ポイント）
- ③あまり持っていない：1 名（1.7%、-4.1 ポイント）
- ④持っていない：0 名（0.0%、-1.9 ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は 98.3%（前年度比+6.0 ポイント）で、短期大学全体の数値（99.4%）より 1.1 ポイント低くなった。修意欲があると回答した学生が 90%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：59名分（欠損1）

- ①一致している：41名（69.5%、+2.2ポイント）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：5名（8.5%、-14.6ポイント）
- ③興味関心とは異なる分野：1名（1.7%、-0.2ポイント）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：10名（16.9%、+11.1ポイント）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：2名（3.4%、+1.5ポイント）
- ⑥その他：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は78.0%（前年度比-12.4ポイント）で、短期大学全体の数値（88.9%）より10.9ポイント低く、3学科で唯一90%を下回った。興味関心があると回答した学生は70%を超え、一定の興味関心を持った学生が集まったと言える。一方で、自分の興味関心がわからない等、今後の学修に向けて注意が必要な学生が20%を超えており、今後の指導に注意する必要がある。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：60名分（欠損なし）

- ①とても楽しみ：13名（21.7%、増減なし）
- ②まあまあ楽しみ：42名（70.0%、-6.1ポイント）
- ③あまり楽しみではない：5名（8.3%、+6.1ポイント）
- ④楽しみではない：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は91.7%（前年度比-6.1ポイント）で、短期大学全体の数値（92.6%）より1.1ポイント低くなった。90%を超える学生が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表3-2）

有効回答数：59名分（欠損1）

- ①ある：6名（10.2%、+2.5ポイント）
- ②まあまあある：21名（35.6%、-8.6ポイント）
- ③あまりない：27名（45.8%、+1.3ポイント）
- ④ない：5名（8.5%、+4.7ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は45.8%（前年度比-6.1ポイント）で、短期大学全体の数値（53.7%）よりも7.9ポイント低くなった。半数を超える学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要がある。

あるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校2年～3年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目 22 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：60名分

- ①とてもそう思う：23名(38.3%、-2.1ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：34名(56.7%、-1.0ポイント)
- ③あまりそう思わない：3名(5.0%、+5.0ポイント)
- ④まったくそう思わない：0名(0.0%、-1.9ポイント)

選択肢①と選択肢②の合計は95.0%(前年度比-3.1ポイント)で、短期大学全体の数値(95.7%)よりも0.7ポイント低くなった。90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、現代教養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-2. 食物栄養学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：15.9 ($SD = 5.52$)、数学：20.8 ($SD = 3.98$)、総合 36.8 ($SD = 8.44$)

食物栄養学科の基礎学力確認テストの受験者数は 65 名（前年度比+19 名）であった。総合成績の平均は 36.8 点 ($SD = 8.44$) で、短期大学の平均（36.0 点）よりも 0.7 点高くなったが、学科の前年度比では -0.9 点であった。学力は前年度とほぼ同等であると考えられる。

本学科ではエントリー入試、指定校推薦、附属高校選抜に入学者が偏っており、他の入試区分に入学者が 10 名を超える区分がないため、入試区分別の比較は妥当ではない。

総合成績において短期大学平均以上または短期大学平均並み（短期大学平均-1 標準偏差以上=26.3 点以上）の受験者は学科の 92.3% を占める。短期大学平均-1 標準偏差未満=26.3 点未満（受験者全体の 15.93%）に相当する受験者の比率は 7.7% で、前年度よりも 1.2 ポイント上昇した。

評価

基本的な学力は短期大学の平均よりもやや高く、学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2 「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：65 名分（欠損なし）

- ①とても持っている：30 名（46.2%、-12.5 ポイント）
- ②まあまあ持っている：35 名（53.8%、+12.5 ポイント）
- ③あまり持っていない：0 名（0.0%、増減なし）
- ④持っていない：0 名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は 100%（前年度比で増減なし）に達し、短期大学全体の数値（99.4%）より 0.6 ポイント高くなった。全員が、学修意欲があると回答しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23 「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：65 名分（欠損なし）

- ①一致している：52 名（80.0%、-0.4 ポイント）

- ②一致していないが、興味関心に近い分野：9名（13.8%、+0.8ポイント）
- ③興味関心とは異なる分野：0名（0.0%、-4.3ポイント）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：4名（6.2%、+4.0ポイント）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0名（0.0%、増減なし）
- ⑥その他：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は93.8%（前年度比-0.3ポイント）で、短期大学全体の数値（88.9%）よりも4.6ポイント高くなった。食物栄養学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に興味関心があると回答した学生が90%を超えており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：65名分

- ①とても楽しみ：23名（35.4%、-2.1ポイント）
- ②まあまあ楽しみ：35名（53.8%、-8.7ポイント）
- ③あまり楽しみではない：7名（10.8%、+10.8ポイント）
- ④楽しみではない：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は89.4%（前年度比-10.6ポイント）で、短期大学全体の数値（92.6%）よりも3.2ポイント低くなった。約90%の学生が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表3-2）

有効回答数：65名分

- ①ある：0名（0.0%、-6.5ポイント）
- ②まあまあある：37名（56.9%、-4.0ポイント）
- ③あまりない：24名（36.9%、+4.3ポイント）
- ④ない：4名（6.2%、+6.2ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は56.9%（前年度比-10.5ポイント）で、短期大学全体の数値（53.7%）よりも3.2ポイント高くなった。前年度よりも一定のイメージがないと回答した学生が増え、卒業時に栄養士資格を取るという具体的な目標があるにもかかわらず、半数近くの学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今

後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校2年～3年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目 22 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：65名分

- ①とてもそう思う：26名(40.0%、+0.9ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：37名(56.9%、-1.8ポイント)
- ③あまりそう思わない：2名(3.1%、+0.9ポイント)
- ④まったくそう思わない：0名(0.0%、増減なし)

選択肢①と選択肢②の合計は96.9%(前年度比-0.9ポイント)で、短期大学全体の数値(95.7%)よりも1.2ポイント高くなった。90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、食物栄養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-3. 幼児教育学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：14.6 ($SD = 6.30$)、数学：19.9 ($SD = 5.44$)、総合 34.6 ($SD = 10.48$)

幼児教育学科の基礎学力確認テストの受験者数は 38 名（前年度比－10 名）であった。総合成績の平均は 34.6 点 ($SD = 10.48$) で、短期大学の平均（36.0 点）よりも 1.4 点低いが、前年度比では +0.5 点であった。今年度の分析対象となった受験者には社会人入試による入学者が含まれているが、これらの受験者を除外して成績を算出しても、英語・数学で 0.4 点、総合成績で 0.8 点上昇するに過ぎず、学科の成績に大きな影響を与えているとは考えにくい。

本学科では、エントリー入試と指定校推薦の入学者で 70%以上を占め、その他の入試区分に入学者が 10 名を超える区分がないため、入試区分別の比較は妥当ではない。

総合成績において短期大学平均以上または短期大学平均並み（短期大学平均－1 標準偏差以上＝26.3 点以上）の受験者は学科の 76.3%を占める。短期大学平均－1 標準偏差未満＝26.3 点未満（受験者全体の下位 15.93%）に相当する受験者の比率は 23.7%で、前年度よりも 1.3 ポイント減少した。下位に位置する入学者の存在によって、短期大学内での学力が相対的に低く出ている可能性がある。

評価

基本的な学力が短期大学の平均よりも低いのが、学修に必要な基礎学力は備えていると考えられ、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、一部の学生については、今後の学修状況に注意が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：38 名分

- ①とても持っている：28 名（73.7%、+13.3 ポイント）
- ②まあまあ持っている：10 名（26.3%、－11.2 ポイント）
- ③あまり持っていない：0 名（0.0%、－2.1 ポイント）
- ④持っていない：0 名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は 100%（前年度比+2.1 ポイント）に達し、短期大学全体の数値（99.4%）よりも 0.6 ポイント高くなった。全員が、学修意欲があると回答しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：38 名分

- ①一致している：35名（92.1%、-1.7ポイント）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：2名（5.3%、+3.2ポイント）
- ③興味関心とは異なる分野：0名（0.0%、増減なし）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：1名（2.6%、-1.6ポイント）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0名（0.0%、増減なし）
- ⑥その他：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は97.4%（前年度比+1.6ポイント）で、短期大学全体の数値（88.9%）よりも8.5ポイント高く、3学科の中で最も高い値となった。幼児教育学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に興味関心と一致していると回答した学生が90%を超えており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：38名分

- ①とても楽しみ：16名（42.1%、+4.6ポイント）
- ②まあまあ楽しみ：22名（57.9%、-4.6ポイント）
- ③あまり楽しみではない0名（0.0%、増減なし）
- ④楽しみではない：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は100%に達し（前年度比で増減なし）、短期大学全体の数値（92.6%）よりも7.4ポイント高く、3学科の中で最も高い値となった。全員が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表3-2）

有効回答数：38名分

- ①ある：4名（10.5%、-2.0ポイント）
- ②まあまあある：19名（50.0%、増減なし）
- ③あまりない：15名（39.5%、+2.0ポイント）
- ④ない：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は60.5%（前年度比-2.0ポイント）で、短期大学全体の数値（53.7%）よりも6.8ポイント高く、3学科の中で最も高い値となった。前年度よりも一定のイメージがないと回

答した学生が増え、卒業時に保育士等の資格を取るという具体的な目標があるにもかかわらず、半数近くの学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。この項目で尋ねているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校 2 年～3 年にかけてのオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目 22 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」(表 3-3)

有効回答数：38 名分

- ①とてもそう思う：27 名 (71.1%、+10.7 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：9 名 (23.7%、-13.8 ポイント)
- ③あまりそう思わない：2 名 (5.3%、+3.2 ポイント)
- ④まったくそう思わない：0 名 (0.0%、増減なし)

選択肢①と選択肢②の合計は 94.7% (昨年度比-3.2 ポイント) で、短期大学全体の数値 (95.7%) よりも 1.0 ポイント低くなった。90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、幼児教育学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

3. 短期大学のアドミッションポリシーに関する総合評価

以上の各学科の評価からは、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えない。したがって、現在のアドミッションポリシーには不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていないと言える。

一方で、一部の学科における基礎学力の担保について、課題が残る。また、学生生活のイメージ形成の低さについても、新型コロナウイルス感染症が影響している可能性が推測されるものの、実際に入学者全体の約4割がイメージを持っていないことは事実である。食物栄養学科と幼児教育学科は、卒業時に資格取得を目指す学科であり、これらの学科においても大学生活へのイメージ形成が低いことを踏まえ、今後の指導に留意する必要がある。

II. カリキュラムポリシーの評価

1. 評価資料

2021 年度に開講されたすべての科目について、成績評価の内訳をすべて整理した。これらの科目を教育課程表に基づいて科目区分ごとに分類し、成績評価の内訳の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」の人数を基に、履修放棄率を算出した。履修取消は GPA の算出に影響しないこと、および期首に誤って履修単位数の上限を超えて登録したために取り消した学生が含まれていることから、分析においては「放棄」のみを対象とした。

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

①評価の対象とする科目

現代教養学科の科目群は、総合科目、基盤科目、コース科目となっている。これらの科目群をそれぞれ必修と選択に分けた。その結果、科目群ごとの科目数は、総合科目が必修 5 科目・選択 1 科目、基盤科目が必修 4 科目・選択 23 科目、コース科目が必修 1 科目・選択 46 科目、卒業研究相当科目が 1 科目で、合計 81 科目となった。今年度の分析においては、各区分の必修科目が少ないため、必修科目は総合科目・基盤科目・コース科目を一括して計算し、選択科目はそれぞれの科目区分について計算することとした。

②合格率と履修放棄率

必修科目は、全科目が合格率 100%であった。選択科目の合格率は、全科目の平均が 96.7%であった。科目区分ごとに見ると、総合科目 100.0%、基盤科目 93.4%、コース科目 98.3%であった。

合格率 100%であった科目は、必修科目では 10 科目すべてであった。選択科目では、総合科目 1 科目のうち 1 科目 (100.0%)、基盤科目 23 科目のうち 10 科目 (43.5%)、コース科目 46 科目のうち 37 科目 (80.4%) となり、合計 78 科目中 48 科目 (61.5%) が合格率 100%であった。前年度の分析で対象とした科目のうち合格率 100%であった科目は 29.2%であったので、かなり数値が大きくなっている。

履修放棄率の平均については、**必修科目はすべて履修放棄率 0.0%であった**。選択科目の**履修放棄率の平均**は、基盤科目 4.0%、コース科目 0.3%で、選択科目全体で 1.5%であった。履修放棄率が 20%を超えた科目が基盤科目に 1 科目あったが、これは履修者 6 名のうち 2 名が放棄したため、高い放棄率となった科目である。履修放棄率が最も高いのはこの科目で、33.3%であった。**選択科目 70 科目のうち 82.9%**に相当する 58 科目が、履修放棄率 0.0%である。

評価内訳については、対象とした全科目を通して「秀」が 18.4%、「優」が 31.4%、「良」が 26.7%、「可」が 21.1%であった。「優」がやや高い値となっている。「秀」と「優」の合計は全体で 43.5%であった。

合格率が 70%に満たなかった科目は上記の履修放棄率が高かった科目のみで、その他に履修放棄率が 20%を超える科目はなく、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。これより、評価対象としたカリキュラムに、学修計画の不備はないと判断する。

2-2. 食物栄養学科

①評価の対象とする科目

教養科目から必修 2 科目、専門科目 41 科目を対象とした。専門科目を、さらに必修 21 科目と選択 20 科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

栄養教諭Ⅱ種の免許状取得に関わる教職科目は、分析から除外した。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目の合格率の平均は、100.0%であった。これら 2 科目はいずれもキャリア教育科目である。専門科目の合格率の平均は、必修科目で 99.8%（前年度比+0.2 ポイント）、選択科目で 98.8%（前年度比+0.5 ポイント）となり、41 科目の合格率の平均は 99.3%（前年度比+0.3 ポイント）であった。合格率が 100%であった科目は、教養必修科目 2 科目のすべて、専門必修科目 21 科目のうち 19 科目（90.5%）、専門選択科目 20 科目のうち 17 科目（85.0%）であった。対象とした全 43 科目のうち、38 科目（92.7%）が合格率 100%であった。前年度の合格率 100%の科目は、対象とした全科目の 65.8%であったので、前年度比で 26.9 ポイント高くなった。必修科目のみを対象とすると、教養科目と専門科目合わせて 23 科目のうち 21 科目（91.3%）が合格率 100%であった。対象とした 43 科目中 41 科目（95.3%）が合格率 95%以上である。

履修放棄率については、教養必修科目と専門必修科目では、履修放棄があった科目はなかった。専門選択科目では 1.1%であった。最も値が高い科目の履修放棄率は 12.1%で、この科目では放棄した学生以外は全員合格しているが、合格率も最も低く 87.9%（実習科目）である。

評価内訳については、対象とした全科目を通して「秀」が 13.1%、「優」が 34.9%、「良」が 30.7%、「可」が 20.7%であった。「優」がやや高い値となっている。「秀」と「優」の合計は全体で 48.0%であった。「可」の比率が 45%を超える科目は 3 科目（専門必修 3 科目）であった。

評価がやや低めに偏る科目が複数見られるものの、ほぼすべての科目で合格率は 90%を超え、また履修放棄率も 5%以下となっており、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。卒業時の栄養士資格取得に向けて、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。成績評価が低い方へ集中している科目や履修放棄率が 10%を超えた科目については、今後学生の状況等を精査する。

2-3. 幼児教育学科

①評価の対象とする科目

幼児教育学科の学科の科目群は、教育科目と専門科目となっている。これらの科目群から、教育科目必修4科目、専門科目52科目、合計56科目を対象とした、さらに専門科目を必修42科目、選択9科目、卒業研究1科目に分けて、合格率と履修放棄率を産出した。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教育必修4科目すべてで100.0%であった。専門科目では、必修科目が99.2%（前年度比-0.7ポイント）、選択科目が97.5%（前年度比-1.0ポイント）、卒業研究が100.0%であった。全体の平均は、99.0%（前年度比-0.6ポイント）であった。対象とした科目のうち54科目で、合格率が90%を超えた。合格率100%の科目は、教育必修科目4科目すべて、**専門必修科目42科目のうち36科目（85.7%）、選択科目9科目のうち6科目（66.7%）、卒業研究1科目**、合計56科目のうち47科目で、比率は83.9%（前年度比-7.1ポイント）であった。

履修放棄率の平均は、教育科目の必修科目が0.0%（前年度比増減なし）、専門必修科目が0.3%、選択科目が2.5%、卒業研究が0.0%であった。専門科目全体の平均は0.7%（前年度比+0.5ポイント）で、履修放棄があったのは52科目中6科目であった。

評価内訳については、対象とした全科目を通して「秀」は13.2%、「優」は33.2%、「良」は34.0%、「可」は18.4%となり、「秀」と「優」の合計は全体で46.4%であった。「優」と「良」の比率が高く、合計で67.2%であった。「可」の比率が45%を超える科目はなかった。

対象とした科目の合格率はほぼすべてで90%を超え、また履修放棄率も低く、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。保育士・幼稚園教諭2種の資格取得に向けて、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

3. カリキュラムポリシーに関する総合評価

短大においては、カリキュラム（教育課程）は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。また、食物栄養学科および幼児教育学科においては、卒業時に資格（栄養士、保育士・幼稚園教諭2種）を取得することを前提として、カリキュラムが編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また、特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまづきを誘発する要素（学修段階にそぐわない内容や難易度）が潜在的もしくは顕在的に存在していると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。

したがって、カリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた成績の低評価への偏りについては、今後の精査を必要とする。

III. ディプロマポリシーの評価

1. 評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、卒業研究に相当する科目を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。

②卒業率（2年での学修達成率）

2020年度に入学し、2021年度に2年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、その学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。

③就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。幼児教育学科においては、保育士・幼稚園関係の就職率も示した。

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

現代教養学科では、「基礎ゼミⅢ」が卒業研究に相当する。43名が履修し、合格率は100.0%であった（前年度比+2.3ポイント）。成績評価は、「秀」が11.6%（前年度比+9.3ポイント）、「優」が13.6%（前年度比-9.7ポイント）、「良」が34.9%（前年度比+14.0ポイント）、「可」が39.5%（前年度比-11.7ポイント）である。「秀」と「優」を合わせて25.6%（昨年度比で増減なし）であった。前年度に半数を占めていた「可」の比率が低くなったが、「良」と「可」の合計が全体の74.4%を占めており、成績が下方に集中している傾向は変わらない。

②卒業率（2年での学修達成率）

2020年4月に入学した学生は46名であった。このうち93.5%に相当する43名が、2年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した。前年度の卒業率は、95.5%であった。

③就職内定率

就職希望者37名の全員が内定を得た（内定率100.0%）。

総合評価

卒業研究のテーマは、入学してから「総合科目」、「基盤科目」、「コース科目」を学んだ上で、各自が興味を持った内容である。2年間の学修成果として十分であるといえる。

以上①から③までの評価に基づき、2021年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-2. 食物栄養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

該当する科目なし。

②卒業率（2年での学修達成率）

2020年4月に入学した学生は60名であった。このうち98.3%に相当する59名が、2年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した。前年度の卒業率は、95.2%であった。

③就職内定率

就職希望者51名の全員が内定を得た（内定率100.0%）。

総合評価

以上②、③の評価に基づき、2021年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-3. 幼児教育学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

幼児教育学科の「卒業研究」は30名が履修し、合格率は100%（昨年度と同じ）であった。成績評価は、「秀」が13.3%（昨年度34.5%）、「優」が53.3%（同24.1%）、「良」が23.3%（同34.5%）、「可」が10.0%（同6.9%）である。「秀」と「優」を合わせて66.7%（同58.6%）で、昨年度に比べ高い評価が増えている。

②卒業率（2年での学修達成率）

2020年4月に入学した学生は24名であった。このうち83.3%に相当する20名が、2年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した。前年度の卒業率は、88.2%であった。

③就職内定率

就職希望者18名の全員が内定を得た（内定率100.0%）。また、卒業生20名のうち、保育士・幼稚園関係への就職は17名（85.0%）で、就職希望者の94.4%を占めた。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、2021年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

3. ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、短大においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないといえる。